

## 基調講演要旨

### 脅かされる爬虫・両生類

伊原禎雄

(北海道教育大学釧路校)

およそ7000万年前の恐竜の絶滅のように、過去においては地球上の大半の生物が絶滅するような事態が幾度か生じてきた。現在生じている生物種の減少がこのまま進めば、そうした過去の大絶滅に匹敵するものになると危惧されている。種の絶滅速度は急速に加速しており、絶滅種は年間数万に上るとされる。脊椎動物の中で両生類や爬虫類の絶滅危惧種のは数は2002年まではその他の動物群と比べて相対的に少なかったが、両生類については、2004年以降になると一気に増加し、最も絶滅危惧種が多い動物群に位置づけられるようになった。両生類の減少は、それを餌にするヘビ類や猛禽や哺乳類等を減少させることになり、地域生態系を劣化させることになる。

両生類の減少には、環境開発、環境変動、病気の発生、外来種の影響、遺伝子汚染などの様々な要因が関与しているとされる。特に近年、これらの要因の中でもツボカビ病、ラナウイルス、寄生虫感染症等の病気やアライグマ、アメリカミンク、マンガースのような外来種の影響は深刻であり、世界中で個体群の縮小や絶滅をもたらしていることが指摘されている。そこでその実態を広く説明するとともに、国内での事例として、福島県の相馬地方のトウホクサンショウウオ個体群において深刻な被害を発生させている吸虫による寄生虫感染症について、さらに福島県只見地方で発生したアライグマの捕殺によるモリアオガエルの大量死の状況等を紹介した。両生類の絶滅を食い止め、地域生態系の劣化を阻止するためには、まずは、より多くの人がこの問題についての認識を持つことが重要である。カエルやトカゲは古くからの隣人であり、常に身近にいる存在である。それがいつのまにか消えていたということになれば、実に切なく、申し訳ないことだと思ふ。

### 阿寒湖周辺地域爬虫類両棲類等の

調査結果について

照井滋晴

(NPO 法人環境把握推進ネットワークー PEG・北海道爬虫両生類研究会)

当講演内容は北海道爬虫両生類研究報告 Vol. 3の報文、「阿寒湖周辺域に生息する両棲爬虫類の生息状況」に掲載されているため、講演要旨の掲載を省略する。

### 円山動物園は虫類・両生類館

デジタルガイドについて

野谷悦子

(フリーライター・北海道爬虫両生類研究会)

札幌市中央図書館の札幌市電子図書館のコンテンツとして、2014年4月に貸出が開始されたサービスで、内容は円山動物園は虫類・両生類館で飼育されている動物のガイドブック、動画、音声、館内の紹介やクイズも掲載されている。スマートフォンやタブレット端末で閲覧できるこのサービスの登録方法や使用方法を著者である野谷氏に説明して頂いた。